

平成27年12月4日公表

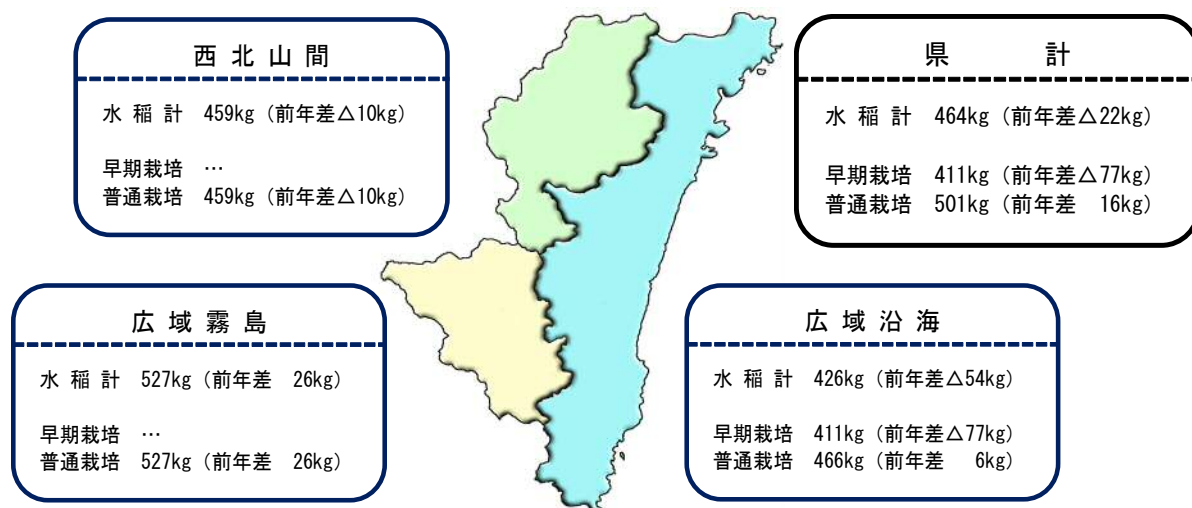
平成27年産水稲の収穫量（宮崎）

— 水稲の収穫量（主食用）は7万4,700t（前年産に比べ9,900t減少） —

【調査結果の概要】

- 1 宮崎県における平成27年産水稲の作柄は、早期栽培では日照不足の影響から10a当たり収量は411kg（前年産に比べ77kg減少）となりました。普通栽培では、登熟がやや不良となり10a当たり収量は501kg（作柄の悪かった前年産に比べ16kg増加）となりました。
- 2 水稲計の10a当たり収量は464kg（前年産に比べ22kg減少）、収穫量（子実用）は8万300t（同1万100t減少）となりました。
また、主食用作付面積に10a当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は7万4,700t（前年産に比べ9,900t減少）となりました。

図1 平成27年産水稲の作柄表示地帯別10a当たり収量



- 10a当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量です。なお、農家等が使用しているふるい目幅ベースの作況指数は、3ページに掲載しています。
- 収穫量（子実用）とは、水稲作付面積（青刈り面積を含む。）から、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積に10a当たり収量を乗じたものです。
- 主食用作付面積とは、水稲作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積を除いた面積です。
- 「…」は未発表のもの。

本統計調査結果は、九州農政局ホームページ「統計情報」の「九州の農林水産統計データ」で御覧いただけます。

【 http://www.maff.go.jp/kyusyu/toukei/ht_all_press.html 】

◎ 水稻調査結果の主な利活用

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針及び米穀の需給見通しのための資料
- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業災害補償法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業における共済基準収穫量算定のための資料

【調査結果】

1 水稻の作柄概況

(1) 早期栽培

全もみ数は、日照不足等の影響から穂数が少なく、1穂当たりもみ数もやや少なくなったことから、平年に比べて少なくなりました。

登熟は、6月から7月の日照不足や低温、多雨等の影響から不良となりました。

被害は、分けつ期から登熟期にかけての日照不足や低温などの気象被害や、いもち病等の影響から、総じて平年に比べて多くなりました。

この結果、10a当たり収量は411kg（前年産に比べ77kg減少）となりました。

(2) 普通栽培

全もみ数は、穂数は少なくなりましたが、1穂当たりもみ数が多くなったことから、平年並みとなりました。

登熟は、日照時間や気温日較差など気象条件に恵まれましたが、1穂当たりもみ数が多く、出穂期の多雨や日照不足等の影響から、平年に比べてやや不良となりました。

被害は、生育期間を通しての日照不足や、いもち病等の影響から、総じて平年に比べてやや多くなりました。

この結果、10a当たり収量は501kg（作柄の悪かった前年産に比べ16kg増加）となりました。

2 水稻の収穫量

収穫量（子実用）は8万300t（前年産に比べ1万100t減少）となり、早期栽培で2万9,100t（同9,100t減少）、普通栽培で5万1,100t（同1,300t減少）となりました。

また、主食用作付面積に10a当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は7万4,700tで、前年産に比べ9,900tの減少となりました。

表－１ 平成27年産水稻の作付面積及び収穫量

区 分	作付面積 (子実用) ①	10a 当たり収量		収穫量 (子実用)		参 考	
		実 数 ②	前年産 との比較 対 差	実 数 ③=①×②	前年産 との比較 対 差	主食用 作付面積 ④	収穫量 (主食用) ⑤=④×②
水 稻 計	17,300	464	△22	80,300	△10,100	16,100	74,700
早期栽培	7,090	411	△77	29,100	△9,100	…	…
普通栽培	10,200	501	16	51,100	△1,300	…	…

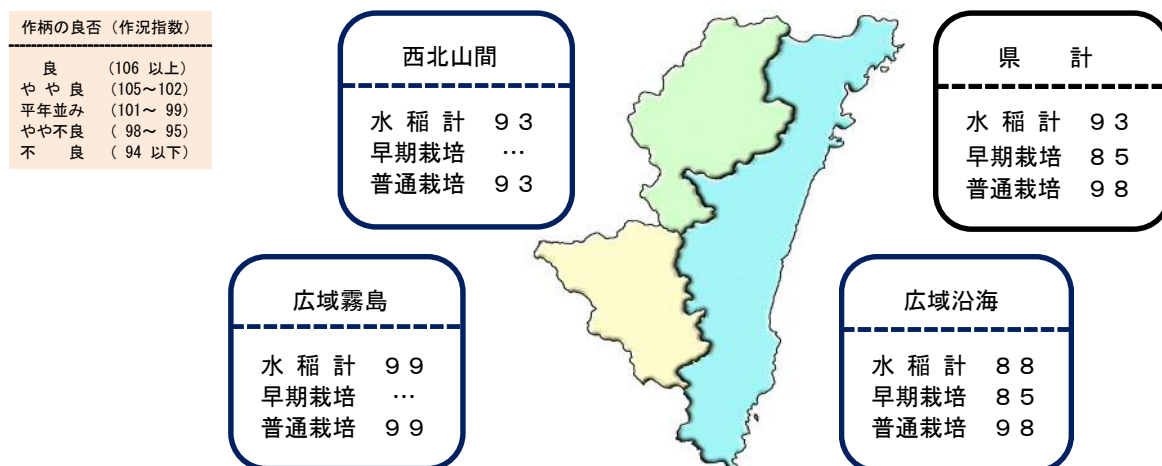
- 注：1 10a当たり収量及び収穫量は、1.7mmのふるい幅で選別された玄米の重量です。
 2 統計数値については、四捨五入の関係で計と内訳が一致しないことがあります。
 3 主食用作付面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、生産数量目標の外数として取り扱う米穀等（備蓄米、加工用米、新規需要米等）の作付面積を除いた面積です。
 4 作期別の「主食用作付面積」及び「収穫量（主食用）」は、備蓄米、加工用米、新規需要米等の面積を把握していないため、「…」で示しています。
 5 「△」は前年より減少したことを示します。

表－２ 平成27年産水稻の作付面積及び収穫量（作期別、作柄表示地帯別）

区 分	作付面積 (子実用) ①	10a 当たり 収 量 ②	(参考) 農家等が使用している ふるい目幅で選別			収穫量 (子実用) ⑥=①×②	参 考	
			10a 当たり 収 量 ③	10a 当たり 平年収量 ④	作況指数 ⑤=③/④		主食用 作付面積 ⑦	収穫量 (主食用) ⑧=⑦×②
水 稻 計	17,300	464	448	484	93	80,300	16,100	74,700
早期栽培	7,090	411	399	471	85	29,100	…	…
普通栽培	10,200	501	482	493	98	51,100	…	…
広域沿海	9,850	426	413	467	88	42,000	…	…
早期栽培	7,080	411	399	471	85	29,100	…	…
普通栽培	2,780	466	448	457	98	13,000	…	…
広域霧島	5,950	527	509	515	99	31,400	…	…
普通栽培	5,950	527	509	515	99	31,400	…	…
西北山間	1,470	459	435	468	93	6,750	…	…
普通栽培	1,470	459	435	468	93	6,750	…	…

注：(参考) の農家等が使用しているふるい目幅で選別された ③10a当たり収量 ④10a当たり平年収量 ⑤作況指数については、農家等が使用しているふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるい目幅（九州は1.8mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値です。

図２ 作柄表示地帯別作況指数 【農家等が使用している目幅ベース】



注：作況指数は、農家等が使用しているふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるい目幅（九州は1.8mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値です。

表－3 平成27年産水稲の収量構成要素（水稲作況標本筆調査成績）

区 分	1 m ² 当たり 株数		1 株当たり 有効穂数		1 m ² 当たり 有効穂数		1 穂当たり もみ数		1 m ² 当たり 全もみ数		千もみ 当たり収量	
	本 年	対 平 年 比	本 年	対 平 年 比	本 年	対 平 年 比	本 年	対 平 年 比	本 年	対 平 年 比	本 年	対 平 年 比
宮崎	株	%	本	%	本	%	粒	%	百粒	%	g	%
	16.6	95	22.8	96	378	91	72.8	105	275	96	17.1	96

区 分	粗玄米 粒数歩合		玄米 粒数歩合		玄米 千粒重		10 a 当たり 粗玄米重		玄米重 歩合		10 a 当たり 玄米重	
	本 年	対 平 年 比	本 年	対 平 年 比	本 年	対 平 年 比	本 年	対 平 年 比	本 年	対 平 年 比	本 年	対 平 年 比
宮崎	%	%	%	%	g	%	kg	%	%	%	kg	%
	87.6	100	94.2	99	20.7	97	488	93	96.5	99	471	92

注：1 表中の本年の値は作期別（早期栽培・普通栽培）の平均値です。

2 対平年比とは、上記1の過年次の値から作成された平年値との対比です。

表－4 平成27年産水稲の被害面積及び被害量

被 害 種 類	被害面積	被 害 量	
		実 数	構 成 比
総 数	ha	t	%
	57,700	19,200	100
うち 気 象 被 害	23,900	11,700	61
風 水 害	6,370	736	(4)
日 照 不 足	17,300	10,900	(57)
うち 病 害	22,800	6,290	33
いもち病	11,700	4,630	(24)
紋 枯 病	7,150	1,180	(6)
うち 虫 害	9,870	911	5
ウ ン カ	2,120	235	(1)
カメムシ	1,980	283	(1)
うち そ の 他	1,170	249	1

注：1 被害面積は、同一地域で2種類以上の被害を受けた場合は重複して計上しています。

2 被害面積及び被害量については、ラウンドしているため、積み上げ値とは一致しません。

3 被害量構成比における括弧の比率については、被害量総数に対する割合のため、各被害の小計の割合と一致しない場合があります。

【参考1】

平成27年産水稲玄米のふるい目幅別重量分布状況、10a 当たり収量及び収穫量（子実用）

本調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、収量基準は、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別された玄米の重量としています。（【参考2】参照）
 なお、ふるい目幅別の重量割合並びにふるい目幅別10a 当たり収量及び収穫量（子実用）を示すと次のとおりです。

表－5 平成27年産ふるい目幅別重量分布状況

	計	ふるい目幅別重量分布状況					
		1.70～ 1.75mm	1.75～ 1.80	1.80～ 1.85	1.85～ 1.90	1.90～ 2.00	2.00mm 以上
重量割合（水稲合計）（%）	100.0	1.3	2.1	2.8	5.0	28.8	60.0
平均値	100.0	1.1	1.7	2.4	3.8	20.2	70.8
対平均差	0.0	0.2	0.4	0.4	1.2	8.6	△ 10.8
重量割合（早期水稲）（%）	100.0	1.0	1.8	2.4	4.6	33.8	56.4
平均値	100.0	0.7	1.1	1.5	2.4	16.8	77.5
対平均差	0.0	0.3	0.7	0.9	2.2	17.0	△ 21.1
重量割合（普通水稲）（%）	100.0	1.5	2.3	3.1	5.3	25.9	61.9
平均値	100.0	1.3	2.0	3.0	4.7	22.5	66.5
対平均差	0.0	0.2	0.3	0.1	0.6	3.4	△ 4.6

注：対平均差に用いた平均値は、直近5か年の重量割合の平均値です。

表－6 平成27年産ふるい目幅別10a 当たり収量及び収穫量（子実用）

		1.70mm 選別	1.75mm 選別	1.80mm 選別	1.85mm 選別	1.90mm 選別	2.00mm 選別		
水稲計		10a当たり収量 (kg)	464	458	448	435	412	278	
		収穫量(子実用) (t)	80,300	79,300	77,600	75,300	71,300	48,200	
作 期 別	早期栽培	10a当たり収量 (kg)	411	407	399	390	371	232	
		収穫量(子実用) (t)	29,100	28,800	28,300	27,600	26,200	16,400	
	普通栽培	10a当たり収量 (kg)	501	493	482	466	440	310	
		収穫量(子実用) (t)	51,100	50,300	49,200	47,600	44,900	31,600	
地 帯 別	広域沿海	早期栽培	10a当たり収量 (kg)	411	407	399	390	371	232
		収穫量(子実用) (t)	29,100	28,800	28,300	27,600	26,200	16,400	
	普通栽培	10a当たり収量 (kg)	466	459	448	432	405	276	
		収穫量(子実用) (t)	13,000	12,800	12,500	12,000	11,300	7,700	
	広域霧島	10a当たり収量 (kg)	527	520	509	495	469	336	
		収穫量(子実用) (t)	31,400	31,000	30,300	29,500	27,900	20,000	
西北山間	10a当たり収量 (kg)	459	448	435	414	387	269		
	収穫量(子実用) (t)	6,750	6,600	6,390	6,080	5,690	3,960		

注： 1 ふるい目幅別の10a当たり収量とは、10a当たり収量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものです。
 2 ふるい目幅別の収穫量(子実用)とは、収穫量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出しています。

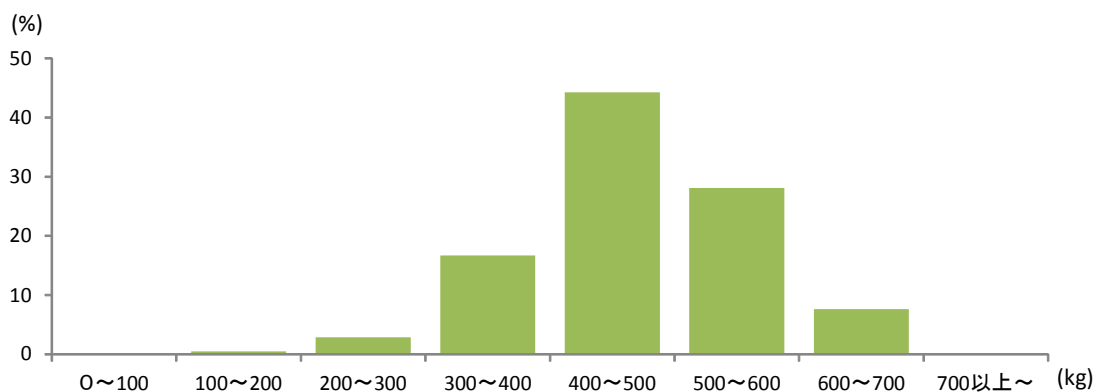
表－7 平成27年産水稻の作況標本筆の10a当たり玄米重の分布状況

単位：％

区 分	計	100kg 未 満	100 ～200	200 ～300	300 ～400	400 ～500	500 ～600	600 ～700	700kg 以 上
筆数割合	100.0	-	0.5	2.9	16.7	44.2	28.1	7.6	-
前 年 値	100.0	-	-	0.5	10.0	40.7	43.5	5.3	-
対前年差	0.0	-	0.5	2.4	6.7	3.5	△ 15.4	2.3	-

注：10a当たり玄米重は、1.7mmのふるい目幅で選別された玄米の重量です。

図 3 平成27年産水稻の作況標本筆の10a当たり玄米重の分布状況



(累年データ) 水稻 (子実用) の年次別推移 (宮崎)

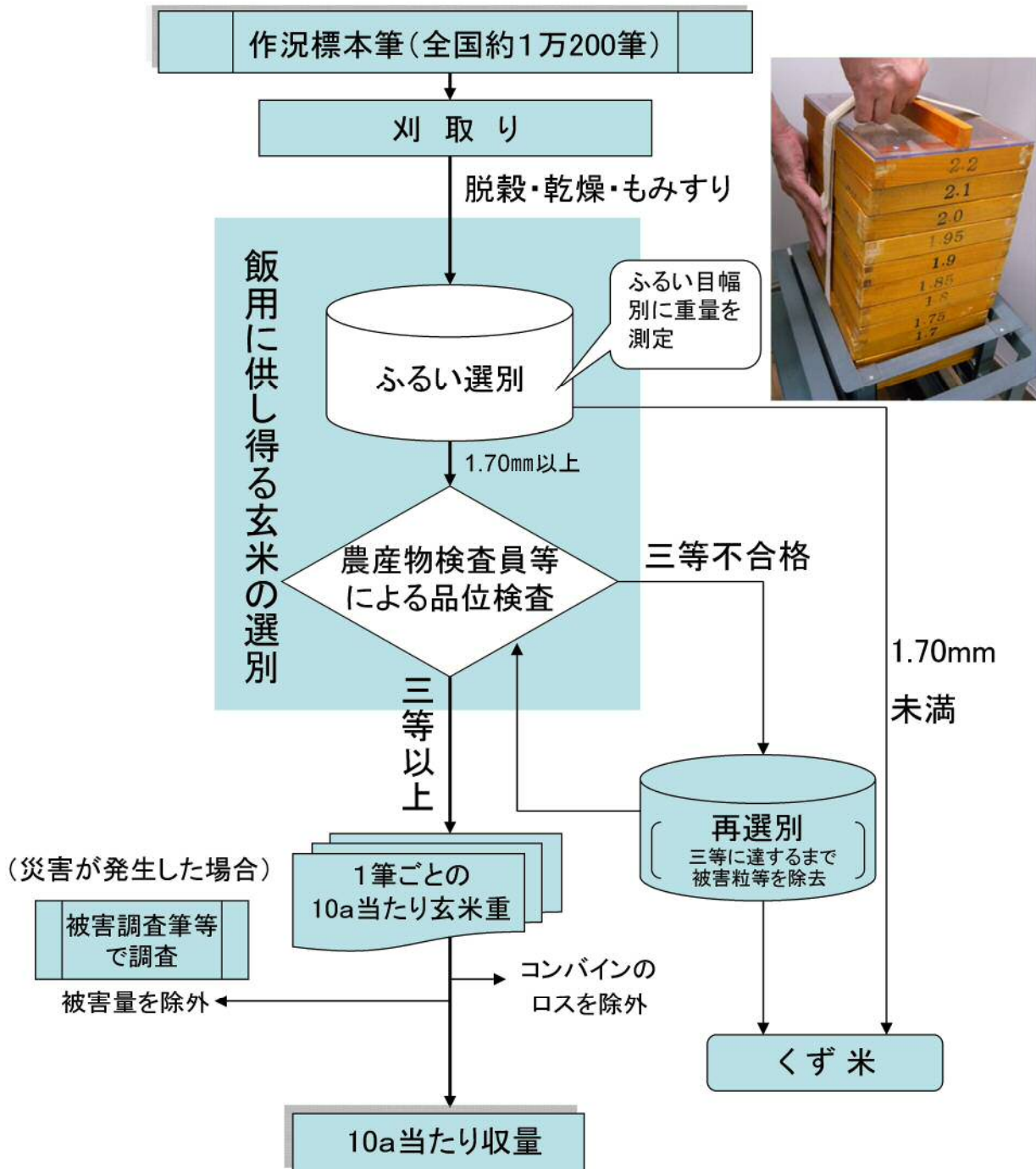
年産	水 稻 計						早 期 栽 培				普 通 栽 培			
	作付面積	10a当たり 収量	収獲量	参 考			作付面積	10a当たり 収量	収獲量	参 考	作付面積	10a当たり 収量	収獲量	参 考
				主食用 作付面積	収獲量 (主食用)	作況指数								
平.元	27,000	438	118,300	100	12,600	417	52,500	99	14,400	457	65,800	101
2	26,700	453	121,000	102	12,700	457	58,000	108	14,000	450	63,000	98
3	26,300	423	111,200	95	12,600	400	50,400	93	13,700	444	60,800	97
4	27,100	466	126,300	104	13,200	458	60,500	106	13,900	474	65,900	103
5	27,500	370	101,800	83	13,300	367	48,800	85	14,200	373	53,000	81
6	29,000	516	149,600	115	13,700	490	67,100	113	15,300	539	82,500	117
7	28,100	513	144,200	114	13,400	498	66,700	114	14,700	526	77,300	114
8	26,300	468	123,100	103	12,700	429	54,500	97	13,600	504	68,500	108
9	25,700	462	118,700	101	12,100	456	55,200	102	13,600	468	63,600	99
10	23,600	433	102,200	94	11,000	349	38,400	78	12,600	506	63,800	106
11	23,400	426	99,700	90	10,800	423	45,700	94	12,600	429	54,100	87
12	22,700	495	112,400	104	10,200	465	47,400	102	12,500	519	64,900	105
13	21,900	487	106,700	102	9,610	468	45,000	103	12,300	502	61,700	102
14	21,400	481	102,900	100	9,300	461	42,900	100	12,100	496	60,000	99
15	20,900	464	97,000	96	9,000	428	38,500	93	11,900	491	58,400	98
16	21,700	462	100,300	95	9,230	500	46,200	109	12,400	434	53,800	86
17	21,800	473	103,100	97	9,370	488	45,700	105	12,500	462	57,800	91
18	21,500	465	100,000	95	9,340	472	44,100	100	12,100	460	55,700	91
19	21,000	372	78,100	76	9,150	205	18,800	43	11,900	501	59,600	99
20	20,400	511	104,200	20,300	103,700	104	8,790	505	44,400	106	11,600	516	59,900	102
21	20,200	514	103,800	20,200	103,800	104	8,760	517	45,300	109	11,400	512	58,400	101
22	20,100	496	99,700	20,000	99,200	100	8,580	479	41,100	100	11,500	509	58,500	100
23	19,000	489	92,900	18,800	91,900	98	7,890	462	36,500	96	11,100	509	56,500	100
24	19,100	473	90,300	18,900	89,400	95	7,970	471	37,500	98	11,100	474	52,600	93
25	18,900	495	93,600	18,700	92,600	100	8,000	476	38,100	99	10,900	509	55,500	100
26	18,600	486	90,400	17,400	84,600	98	7,820	488	38,200	102	10,800	485	52,400	95
27	17,300	464	80,300	16,100	74,700	93	7,090	411	29,100	85	10,200	501	51,100	98

注：1 平成27年産の作況指数は、農家等が使用しているふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるい目幅（九州は1.8mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値です。なお、平成26年産までは1.70mmのふるい目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値です。

2 「…」は事実不詳又は調査を欠くことを示しています。

収穫量調査の流れ

収穫量調査は、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的として、作況標本筆（【参考3】参照）ごとに一定面積の稲を刈り取り、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別を行い、その重さを計測しています（下図参照）。



作況標本筆^{ふで}とは

収穫量の実測調査の対象とした作況標本筆（1枚のほ場を筆と呼ぶ）は、各都道府県の水稲の状況が確認できるように、標本理論に基づいて以下のように各地で選定し（全国で1万200筆）調査しています。

全国の全ての土地
（母集団）



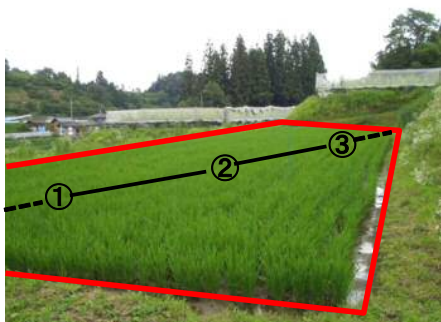
- 1 全国の全ての土地を200m四方（北海道は、400m四方）に区切って編成した単位区のうち、水田が含まれる単位区を調査母集団とし、その中から、無作為抽出法（人間の恣意を排したくじ引きのような選び方）により「標本単位区」を選んでいる。

標本単位区
（200m四方の土地）



- 2 標本単位区の中から無作為に1枚の水田ほ場を選び、「作況標本筆」としている。

作況標本筆
（全国で1万200筆）



- 3 各作況標本筆の対角線上の3か所（①、②、③）を実測調査箇所として、調査箇所ごとに1㎡（合計3㎡）分のサンプル採取（坪刈り）を行っている。

【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の作付面積調査及び水稻収穫量調査として実施し、水稻の作付面積、作柄状況・収穫量を明らかにすることにより、生産対策、需給調整、経営安定対策、技術指導等の農政推進のための資料とすることを目的としています。

2 調査対象数

(1) 作付面積調査

標本単位区：919単位区 巡回・見積り：26市町村

(2) 収穫量調査

作況標本筆：210筆（早期栽培水稻 95筆、普通栽培水稻 115筆）

作況基準筆：17筆

巡回・見積り：26市町村

3 調査事項

(1) 作付面積調査

水稻の作付面積

(2) 収穫量調査

水稻の登熟状況、10 a 当たり収量、被害状況、被害種類別被害面積・被害量、耕種条件等

4 調査期間

(1) 作付面積調査：7月15日現在

(2) 収穫量調査：収穫期

5 調査方法

(1) 作付面積調査

調査は、標本単位区に対する職員又は統計調査員による実測調査及び職員による巡回・見積りにより行いました。

(2) 収穫量調査

調査は、職員又は統計調査員による、作況標本筆及び作況基準筆に対する実測調査並びに巡回・見積りにより行いました。

ふるい目幅別の調査は、刈取り・もみすりした粗玄米を縦目ふるいにより、ふるい目幅別に選別し重量を計測することにより行いました。

6 集計方法

(1) 作付面積調査

対地標本実測調査結果及び巡回・見積り結果により取りまとめています。

(2) 収穫量調査

調査事項について、作況標本筆調査結果を集計し、巡回・見積りにより補完して取りまとめています。

ふるい目幅別については、ふるい目幅別の重量の計測結果を集計し取りまとめています。

7 用語の解説

- (1) 「作況指数」とは、10 a 当たり平年収量に対する10 a 当たり収量の比率です。
なお、平成26年産以前は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出していましたが、平成27年産からは、全国農業地域の農家等が使用しているふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるいの目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値です。
- (2) 「10 a 当たり平年収量」とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合いや作付変動等を考慮し、実収量のすう勢を基に作成したその年に予想される10 a 当たり収量をいいます。
- (3) 「10 a 当たり平均収量対比」とは、10 a 当たり平均収量（原則として過去7か年のうち、最高及び最低を除いた5か年の平均値）に対する当年産の10 a 当たり収量の比率をいいます。
- (4) 「被害面積」とは、農作物に損傷を生じ、その被害が発生しなかったと仮定した場合に穫れ得ると見込まれる収量から減収した面積をいいます。
- (5) 「被害量」とは、農作物の栽培が開始されてから収納されるまでの期間に、災害等によって損傷を生じ、その被害が発生しなかったと仮定した場合に穫れ得ると見込まれる収量より減収した量をいいます。

8 その他

- (1) この資料の確定した詳細な数値はホームページに掲載（平成28年2月予定）するとともに、その後刊行する『耕地及び作付面積統計』及び『作物統計』に掲載する予定です。
なお、確定した詳細の数値をホームページに掲載した後の正誤情報はホームページでお知らせします。
- (2) 水稻の作柄表示地帯区分は、次のとおりです。
広域沿海 ―― 宮崎市、日南市、串間市、西都市、延岡市、日向市、東諸県郡、児湯郡
（西米良村を除く）、門川町
広域霧島 ―― 都城市、小林市、えびの市、北諸県郡、西諸県郡
西北山間 ―― 西臼杵郡、美郷町、諸塚村、椎葉村、西米良村

【ホームページ掲載案内】

- 各種農林水産統計調査結果は、農林水産省ホームページ中の統計情報で御覧いただけます。
【 <http://www.maff.go.jp/j/tokei/> 】

お問合せ先

◎ 本統計調査結果について

連絡先： 九州農政局 宮崎支局 （統計チーム）

電話：（直通）0985-24-2373 FAX：0985-27-1449